

日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会ニュース

発行所：日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会事務局
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室
TEL：0263-37-2622 FAX：0263-37-3499
発行責任者：地方会長 野見山 哲生



巻頭言



日本産業衛生学会理事

金沢医科大学総合医学研究所 嘱託教授 中川 秀昭

ストレスチェック制度はこれで良いのでしょうか。

半年経ちますが、1年目のストレスチェック実施状況が厚生労働省から報告されました。83%の事業所が実施しており、78%の労働者が受検したとのこと。1年目としては高い受診率と感心されましたが、①高ストレス者の発見と適切な対処、②集団分析により高ストレスを生み出す職場環境を洗い出し適切な環境改善を実施する、という本制度の目的はどこまで達成されているか疑問なところです。6割の事業所で産業医は本制度の実施者になっています。医師による面接指導希望した労働者は0.6%にすぎません。厚生労働省の基準ではおよそ10%に高ストレスと判定されます。厚生労働省の基準は絶対的なものでなく、偽陽性者を多く見られると考えられますが、この基準では高ストレスと判断された者20人に1人しか医師による面接指導を希望しなかったことになります。しかるに産業医はどこまで本制度に関与しているか疑問です。6割の事業所で産業医は実施者として主体的に関わっていることになり、個々の労働者のストレスチェックの結果を知りうる立場にあります。高ストレスと判断される労働者を放置することになっていますが、それは良いのでしょうか。知っていたはずなのに……

私が関連している2つの企業は対称的でした。両企業とも私自身が実施者として参加しました。IT関連の企業では、受診率、高ストレス者率、面接指導希望者数の報告を受け、数人の面接指導を行いました。しかし個人毎のデータは知らされませんでした。このような状況の産業医も多かったのではないのでしょうか。一方、製造業の企業では、最初から実施方法について相談がありました。全てのデータを会社に提供して実施される面接指導に疑問があり、産業医面談を提案しました。本企業では98%の受検率で、高ストレスの基準を5%に設定し、約400人の産業医面談を行いました。面談の受検者は85%と高率でした。その結果、15%に配置移動や職場長との話し合いなどの環境調整を行い、3%に新規に治療ルートにのせることができました。本事業の①の目的を果たせたと考えています。先のIT企業においては高ストレス者をそのままにできないので、健康管理室の保健師に特にストレスの高いものには面談を実施するようにと指示をしました。

2企業の経験からも医師による面接指導システムがこのままで良いかどうかは大いに疑問なところです。今後よりよい制度にするためには再検討が必要ではないのでしょうか？



第60回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会報告



第60回学会長

今井 立史 先生（山梨県医師会長）

平成29年10月15日（日）、第60回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会が、甲府市のホテル談露館にて学会長・今井立史先生（山梨県医師会長）、事務局長・高橋英尚先生（山梨産業保健総合支援センター長）のもと開催された。

午前中は事務局長・高橋先生の開会のご挨拶の後、一般口演9題が発表された。いずれの口演も産業衛生の旬な話題ということもあって、フロアの先生方からの質疑を含め活発な議論が交わされた。一般口演終了後、学会長・今井先生の歓迎のご挨拶の後、議長・野見山哲生先生（地方会長）の進行のもと地方会総会が開催された。総会では前日の理事会で承認された議題を含めた案件が地方会事務局より提案され満場一致で承認された。



高橋英尚先生

昼休憩には、「産業医部会 総会」「産業医部会 運営委員会」「産業看護部会 総会・交流会」が其々開催され、活発な意見交換がなされた。

午後からは3題の特別講演が行われた。まず、シックホールディングス(株)代表取締役 CEO の中村和男先生が「変化するヘルスケア市場」と題し講演された。中村先生は高脂血症治療薬「スタチン」の開発プロジェクトリーダーを務められたご経験をもとに、新技術の進化による変化するヘルスケア市場について熱弁された。

続いて厚生労働省医政局医事課・医師養成等企画調整室室長の堀岡伸彦先生が「医師の働き方改革のゆく

え」と題し講演された。堀岡先生は自身が中心にまとめられた医師への調査結果を基に、医師の勤務実態とその問題点を取り上げられた。最後に山梨県立大学大学院・地域看護学教授の小田切陽一先生が「自殺統計を読み解く ～勤労者層に焦点をあてて～」と題し講演された。小田切先生は長年実施されてきた自殺の公的統計データを活用した記述疫学的な研究成果に基づき、特に勤労年齢層の自殺の特徴を中心に紹介された。いずれの講演も演者の魅力的な話術とともにアップデートな内容ということで参加者は熱心に聞き入っていた。



中村 和男 先生



堀岡 伸彦 先生



小田切 陽一 先生

合計参加人数は81名、産業医単位申請者数66名、産業看護専門家単位申請13名と盛況であった。



本地方会も60回を迎えた。人の一生に例えると「還暦」となる。私事で恐縮であるが、恩師の故・佐藤章夫先生（元地方会長）のカバン持ちとして当会に初めて参加したのが丁度30年前である。改めて歴史の重みを感じる総会となった。今後、野見山新会長のもと当会が益々発展することを祈念する。

（文責 金子 誉）



地方会事業から

◇産業看護部会の総会および交流会

～地方会総会は会員の交流を図る貴重な機会～

北陸甲信越看護部会では、会員相互の交流を目的に、2017年10月15日に開催されました地方会総会の昼食の時間を活用して、産業看護部会の総会および交流会を行いました。開催県の山梨県とお隣の長野県から大勢参加していただき、総勢17名での会食になりました。（山梨県の役員の皆さん、ご準備くださりありがとうございました）

お昼休みの1時間弱でしたので、自己紹介、各県の活動報告（ストレスチェックなど、メンタルヘルスに関する研修会が多かったです）そして、日ごろ気になっていることをお話していたら時間切れになってしまいました。どの県も「会員数を増やすこと」が悩みのタネです。良い解決策は思いつかなかったのですが、困り事を共有できるとなんとなく安心できるのが、不思議です。普段はメールや電話でご連絡するしかない方たちとお顔を合わせることができた貴重な時間でした。

2018年度の地方会総会でも同様に、交流の場を企画しますので、ぜひ、看護部会員の皆様から積極的にご参加いただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いします。（文責 小坂 智恵子）

◇長野県衛生管理研究会・三部会合同研修会：

「ストレスチェックの個別面談、集団分析の活用」

平成29年度長野県衛生管理研究会・三部会合同研修会が「ストレスチェックの個別面談、集団分析の活用」をテーマに開催されました。

長野県内の事業場における各職種の取り組みと題し、セイコーエプソン株式会社統括産業医の福嶋義光先生、KYB-YS株式会社看護師の望月香織様、長野計器株式会社産業カウンセラーの小島香世子様に、制度開始2年目の取り組みをご紹介いただきました。制度導入時の工夫や苦労話、調査票作成時にこだわった点、個別面談につなげるための工夫や課題、集団分析結果の紹介と活用方法や工夫の余地があるポイントにつ

いてご紹介され、参加者も熱心に聴き入っていました。教育講演では、信州大学医学部精神医学教室教授の鷲塚伸介先生に、ストレスチェックの応用について、産業現場と精神科医の連携をテーマにお話いただきました。精神疾患とストレスチェックの活用法、精神科医との連携について事例を交えわかりやすくお話いただきました。さらに信州大学で取り組むリワークプログラムについてご紹介いただきました。職場における取り組みについての整理と今後の応用について確認する機会となりました。総合討論では各演者に登壇いただき、意見交換がなされました。このたび三部会合同で開催いたしました、2年目のストレスチェック制度について各職種の観点からのご報告はとても勉強になりました。（文責 塚原 照臣）

会員の取組み

「第22回産業医プロフェッショナルコース参加報告」

福井県産業医部会
株式会社高山産業医事務所
高山 英之



私、平成30年1月27・28日、横浜市で開催された、第22回産業医プロフェッショナルコース（略してPコース）に参加しました。テーマは「産業医のためのもっと伝わる教育デザイン」、講師は産業医科大学の柴田先生でした。

初日のテーマは「教育設計学ガイド」。研修の組立の理論を系統立てて勉強したことはなく、普段から気ままにスライドを作っていた私にとって、「目からうろこが落ちる」貴重な内容でした。

Pコースでは座学だけではなく実習をメインにすることが多いわけですが、今回は小グループに分かれ、グループ毎にテーマを決め（例えばメンタルヘルス・過重労働など）、各々が10分程度のミニレクチャーを1～2時間で作成し、グループ内で発表するというプログラムでした。そして各グループ内で最もよかった発表者を決め、翌日の全体発表会の代表になる、という構成でした。今回の参加者は全国の産業医の先生方の中でも特に熱心な方ばかりで、その方々に自分のプレゼンを評価してもらおうという、大変ありがたいのです

が強烈にプレッシャーがかかるつらい内容でしたが、なんと私は初日のグループ予選を見事に勝ち上がり、2日目の全体発表の荣誉に輝くこととなりました。例年、初日の夜は懇親会があり、遅くまで飲むのが通例となっていました。翌日の準備のため私は1次会で切り上げ、悶々と翌日の準備に取り組むこととなりました。2日目の全体発表では、今回の全参加者の採点で優勝者を決めるという構成でした。各グループの代表の方のプレゼンは流石にハイレベルで、皆様の持ちネタを惜しみなく発表されておりました。私は(優勝ではありませんでしたが)無事にプレゼンを終え、全参加者のフィードバックのコメントをいただきました。帰りの電車では、そのレポートを読み一喜一憂しつつビールを飲んでおりました。

Pコースは例年興味深いテーマで開催されますので、皆様も参加してはいかがでしょうか。



「私の産業看護活動と産業保健看護専門家制度」

金沢大学保健管理センター
亀田 真紀



私の産業保健師としての最初の職場は、国鉄(後のJR)保健管理部で、産業保健・産業看護という言葉もなじみが薄かった頃です。健康診断や保健指導で職場に出向いたこと、合宿保健指導の企画、メンタルヘルス対策など、手探りで取り組んだことを思い出します。

さらに、松下電器健康保険組合(工場の健康管理室)と金沢大学保健管理センターでは、作業環境測定やリスクアセスメント、最近ではストレスチェックの実施と、産業保健業務全般に関わることが出来ました。この複数の事業場での仕事や出会った方々は、私にとっての貴重な経験であり財産と思っています。

就職して間もない頃、当時の上司であるJR北海道の保健師長は、休日ごとに手弁当で東京まで出向き、今の産業保健看護専門家制度の前々身である産業看護講座のプログラム作成に参画していたのを身近で見ました。尊敬する上司のその姿にあこがれ引き込まれて、初めて参加した学会での新鮮な感動は今も忘れ

ません。

産業保健活動の中で、看護職が果たせる役割を明確化し、スキルアップし、専門家として活動するための教育制度として、2015年(平成27年)日本産業衛生学会産業保健看護専門家制度がスタートしました。振り返ると、産業看護講座⇒登録産業看護師制度⇒そして産業保健看護専門家制度へと、先輩方の業績の積み重ねの上に教育プログラムが充実してきたことを知ることができます。産業保健における健康課題は、時代とともに変遷し多様化しています。この制度は、産業看護職が産業保健チームの一員として、働く人のもっとも身近で支援する専門家であるために、段階的に総合的に学ぶことができる近道であり必須と考え、今後も皆で発展させていく責任があると思っています。

入新会員紹介

長野県労働基準協会連合会松本健診所
志摩 温

初めまして。私はこの度日本産業衛生学会に入会させていただきました志摩温と申します。どうぞよろしくお願いいたします。



信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室の野見山哲生先生のご紹介により2016年4月より長野県労働基準協会連合会松本健診所にてお世話になっております。現在は長野県の主に中农信地方の事業所巡回健診を中心に担当させていただいております。巡回を通じて多種多様な事業所の様子や、そこで働いておられる皆様の健康状況を見させていただきまことは、私にとりまして新鮮で大変勉強になることで、大いに学ばせていただいております。また野見山先生や連合会のスタッフの皆様のご厚意により気持ちよく一生懸命仕事をさせていただいております。非常にやりがいのある日々を過ごさせて頂き、感謝するばかりです。

今後、産業衛生学や公衆衛生学等の社会医学の分野で研鑽を積み、さらに頑張っていきたいと思っております。まだまだ分からないことが多く、学ぶべきことの多い未熟者ですので、諸先輩の先生方にはどうぞよろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

私たちの職場 『富山大学医学部公衆衛生学講座』

富山県内の産業保健活動とともに

富山大学医学部公衆衛生学講座

稲寺 秀邦

富山大学医学部の社会医学系講座は「公衆衛生学」講座と「疫学・健康政策学」講座ですが、産業保健についての講義・実習、学会活動は主に「公衆衛生学」講座が担当しています。

富山県内で効果的な産業保健活動を行うためには、県内の産業保健の現状を把握することが必要です。私たちの講座では、これまで団体からの助成により、いくつかの調査研究を行ってきました。平成20年度は富山産業保健推進センター（当時）の助成により「富山県下の小規模事業場における産業保健の現状に関する調査研究」

を行いました。平成21年度は富山県産業医会の助成をいただき「富山県における衛生管理者の産業保健の取組み状況に関する調査研究」を行っています。平成22年度は産業医学振興財団の助成により「GHS促進のための化学物質取り扱いマニュアルの実用化に関する調査研究」を行いました。これらの調査研究の成果は、県内の労働衛生関連諸機関に配布し、資料として役立てていただくとともに、学会や産業保健関連のセミナー等で報告してきました。

富山県は産業看護部会の活動が活発です。富山産業保健総合支援センターの協力のもと、年5回「産業看護セミナー」が開催されています。その成果は年度末の産業看護セミナー報告会で報告され、活発な意見交換（グループワーク）が行われます。また定期的に「とやま産業看護ニュース」を配信しており、これまで16号まで発行されました。

富山県医師会には、富山県産業医会が構成され、183名の県内医師会員が所属・活動しています。この数は県内認定産業医の約30%にあたります。例年8月に総会を行い、8月と2月の年2回、講演会を開催しています。また毎年、富山県産業医会調査研究助成事業を行っており、平成21年度は私たちが上記調査研究を行いました。平成29年度は「富山県下の事業場における産業保健の現状と課題に関する調査研究」を実施しています。現在、質問票の集計作業中で、その成果については地方会でも発表する予定です。



会員 Relay ☆三

リレー形式で会員の皆様の紹介をつないでいきます！

次号へ



森河 裕子

所属：金沢医科大学看護学部
職種/役職：医師/教授
好きな言葉：土の器
ひとこと：教育・研究活動に悩むことが多いこの頃。疫学、統計学、研究倫理を学びなおす時間を毎日作ることが目標です。

大学院生の時に出会い、労働者の味方であり続ける姿を見せてくれている人



服部 真

所属：石川勤労者医療協会
城北病院 健康支援センター
職種/役職：医師/所長
好きな言葉：人間万事塞翁が馬
ひとこと：県医師会・コンサルタント会等を通じて産業医・労働衛生コンサルタントや保健師の専門力量の向上に貢献したい。

金沢大学医学部の同級生で無二の親友が循環器内科が専門だがじん肺や振動障害など産業医学の経験が豊富



平野 治和

所属：福井県医療生活協同組合
光陽生協クリニック
職種/役職：医師/院長
趣味：アクリル抽象画
ひとこと：30年間振動障害とじん肺の臨床、及び産業医活動に携わってきました。今年度も牛歩ながら地道に活動していきます。

事務局から

理事会報告

○平成29年度北陸甲信越地方会 理事会

日時：平成29年10月14日(土) 18:00~19:00

会場：ホテル談露館(山梨県甲府市)

下記の事項が論議され承認された。

1. 平成28年度事業ならびに決算報告
2. 平成28年度の監査報告
3. 平成29年度事業計画案ならびに予算案の説明
4. 次回の第61回地方会学会総会は学会長 近藤邦夫先生(石川県医師会長)の下、石川県で平成30年10月20日(土)理事会、21日(日)学会・総会で行うことが提案された。
5. 公益社団法人化による本部学会の定款の変更に伴った地方会規約の改正案の説明
6. 県の会員数の状況についての報告
7. その他

今後の行事案内

○第91回日本産業衛生学会

会期：平成30年5月16日(水)~19日(土)
20日(日)特別研修会

会場：市民会館シアーズホーム夢ホール
(熊本市市民会館) ほか

○平成30年度北陸甲信越地方会 常任理事会

日時：平成30年6月16日(土) 13:00~(予定)
会場：長野東急REIホテル(長野市)

○第28回日本産業衛生学会全国協議会

会期：平成30年9月14日(金)~16日(日)
会場：東京工科大学蒲田キャンパス

○第61回北陸甲信越地方会学会総会

開催日：平成30年10月20日(土)理事会
21日(日)学会・総会
学会長：石川県医師会長 近藤 邦夫 先生
会場：金沢商工会議所

会員訃報

北陸甲信越地方会地方会所属会員の方がご逝去されました。

大橋 信也 先生 ((有)豊年・代議員)

大芝 玄 先生 (大芝医院・代議員 / 産業医部会幹事 / 北陸甲信越地方会理事)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

お知らせ

○平成30年度日本産業衛生学会北陸甲信越地方会研究助成公募

現在も対象者を募集しております。
ふるってご応募ください。

1. 対象
 - ・産業医学分野における優れた業績が期待できる研究または実践活動
 - ・医師以外の地方会所属の会員によるもの
2. 研究助成金
1件につき5万円
3. 採択件数
1または2件
4. 提出書類
平成30年度日本産業衛生学会北陸甲信越地方会研究助成金申請書(別途)
5. 申請書の提出先
信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室
上條知子宛(担当)
送付先：〒390-8621松本市旭3-1-1
TEL 0263-37-2622 FAX 0263-37-3499
e-mail : kamijoh@shinshu-u.ac.jp
6. 申請書の提出期限
平成30年5月31日(木)
7. 交付の決定
厳正な審査の上採択者を決定し、平成30年6月末までに審査結果を申請者宛に通知する。

編集後記

この度、北陸甲信越地方会の地方会ニュース第2号を発行することができました。今号では、各県の会員の皆様に各記事の執筆を賜り、会員の皆様のご活躍を垣間見ることができました。発行に際してご協力、ご尽力いただきました先生方へ感謝申し上げます。

今後も地方会員の皆様のご活発な活動を広報し、地方会におけるさらなる産業保健の発展を皆様とともに担っていきたいと思います。ご意見やご感想を今後のために編集委員まで頂ければ幸いです。

編集委員 (五十音順)

編集委員長 : 森河 裕子

副編集委員長 : 塚原 照臣

編集委員 : 池田 裕子, 稲寺 秀邦, 遠藤 和男, 小坂 智恵子, 佐藤 一博, 高山 英之, 角田 ひろみ, 西澤 依小, 松永 康弘

事務局 : 上條 知子, 水木 将

